

国内研修成果報告

研修先 岡山県美作市上山
日時 2016年2月27日(土)～3月1日(火)

【はじめに】

現代福祉学部OBである水柿大地さんが活動する、岡山県美作市上山地区を訪れた。講義で水柿さんのお話を聞き、経済的にも労働環境的にも過酷とされる農山村での地域おこしが、どのような成果・役割を生み出しているのかをより知りたいと思った。また、過疎化・高齢化により様々な福祉的課題も抱えているのではないかとも思った。そこで実際に現場を訪れ、現地で活動する方々や住民との交流を通じて、机上では知ることが不可能なことも多く学びたいと上山を訪れることにした。2016年2月27日～3月1日の4日間、上山で活動をさせていただいた。

【1日目】岡山市内見学・翌日の打ち合わせ

岡山駅に着いてから水柿さんと合流するまでの時間、岡山駅の周辺や倉敷周辺を見学した。路面電車など関東では見ることのできない乗り物や日本三名園の1つである後楽園、観光地として有名な倉敷を訪れ感じたことは、外国人観光客に向けての観光情報の提供手段があまり整っていないことだ。東京などはオリンピック開催都市になったことでより観光の活性化が行われている。岡山のように観光資源はあるが活性化をするのが難しい地方と都市部の差のようなものを感じた。都市部の活性化に、地方も付随していけると良いのにと感じた。

その後は、水柿さんと合流し上山へと向かった。今回は民泊をさせていただいた、沖田さん宅へ向かい、翌日に控えていた「上山集楽みんなのモビリティプロジェクト」の試乗会の打ち合わせを行った。会場の準備、当日の運営などを念入りに確認している姿からも今回のイベント規模が大きなものであるということを感じた。

【2日目】「上山集楽みんなのモビリティプロジェクト」試乗会・説明会

このプロジェクトは新たなモビリティを活用し、集落における日常生活改善・農林業の発展・観光産業づくりを目指し、モビリティの可能性による持続可能な集落を検討するもので「トヨタモビリティ基金」からの助成や、全国的にも注目を受ける大きなプロジェクトとなっている。今回はこのプロジェクトの一環で、実際に試乗をしてもらい、そこから出てくる意見や考えをもとに今後の可能性や活用を考える会であった。

私たちも運営に携わり、試乗後のヒアリング調査をさせていただいた。地域住民や多くの企業、NPO法人、大学関係者の方が参加しており、また政界では石破国務大臣、安倍昭恵首相夫人、市議会議員の方などが参加され、こんなに大きな企画の運営に携わらせていただき非常に良い経験となった。ヒアリング調査では、試乗された方の意見や感想を紙に書き貼っていくというものであった。私は「トマコムス」という東京大学が研究を重ねる超小型EV車のヒアリングを担当させていただいた。感想や意見を聞き出したりする中で、課題のようなものも自分なりに見えてきたり、また活用することによって見えてくる可能性のようなものを感じた。小型で運転操作も自動車と変わらないため高齢者にも優しく、農林業での移動で狭い軽トラックが通れないような不整地を通るのに適していると思えた。しかし、段差や畦道などの高低差のある道の走行に伴う安全性の低さのようなものも感じた。私も実際に試乗をさせていただき、坂でパワーがなくなってしまうこともあったが集落内の移動などでは十分に活用できると思った。

自分の知らないところでこんなにも乗り物の開発が進み、活用方法の多様性が広まっていることに正直驚いた。機械化が進むなかで生活や作業、移動が便利になり肉体的負担を軽減



会場の様子



ヒアリングの様子

できることは一見素晴らしいことであるとも思えるが、昔から続くものも（何かはわからないが）知らない間に失われてしまうのではないかという危機感をわずかながら感じた。

試乗会後の説明会では、日常利用・農林業利用・観光利用の3点における説明があり、個人的に観光利用に非常に関心を持った。上山集落の地域資源（棚田景観・野生動物）×地域住民×EV×都市住民とか混じる観光ツアーが実現すると、上山集落を肌で感じてもらえ、他にはない体験型観光ツアーでより注目を浴びることができ、経済効果をも生み出すと思う。

2日目は、たくさんの幅広い分野の方々と交流する事ができ、貴重な体験もできたので、多くのことを学ぶことができた。福祉とは畑違いの分野と思っていた分野も、社会問題解決やよりよい社会を作り出すとなったとき、密接に関わっているのだと感じました。



ヒアリング調査結果



山コムス

[3日目] 片付け・ばら寿司・いちょう庵訪問・ゴルフ・屋根修理・山羊の世話・林業

3日目の午前中は前日のイベントの片付けの手伝いをした。準備・運営・片付けなどを通じて、1つのイベントの企画をすることの大変さと、仲間との連携を上手にとることの重要性を学ぶことができた。また、美作市役所や英田小・中学校に借りた道具などの返却に付き添いさせていただき、市役所の方、校長先生とお話することもでき、上山近隣の地域の様子を知ることができた。

お昼には、上山集落の丸山さん宅で“ばら寿司”をいただいた。“ばら寿司”は、ちらし寿司のようなものでとても美味しかった。丸山さんはとても気さくな方で、水柿さんとも楽しそうに会話をしており、丸山さんと水柿さんの強い信頼関係を感じた。こういった近隣の住民との信頼関係が現代社会には薄れており、高齢者単独世帯における高齢者の孤独死などに繋がっていると思った。地域住民同士の繋がりの大切さを再認識した。今の日本はこういったつながりを、地域包括ケアシステムなどの国や自治体の政策で作っているような気がし、少し残念で複雑な気持ちになった。



その後上山の棚田でゴルフが楽しめるということで、ゴルフ台を設置している小林さん宅を訪ねた。人生初ゴルフが棚田ということで、とても思い出深いものとなった。棚田に向かって打つゴルフもなかなか新鮮であった。小林さんが、寒いからといって甘酒をふるまってくれ、身も心も温まった。上山の方々の心の温かさを感じる瞬間であった。

この日は風も強く吹いており、棚田の中心から“ドン”という音がしたので見てみると、稲刈りをした後の“はさがけ”に使う竹を保管する屋根が折れてしまっていた。なので、その修理の手伝いをした。寒さと強風で大変だったが、無事に屋根を釘で止め元通りに直すことができた。



修理前



修理中



修理後



その後は西口さん宅の山羊の世話を頼まれたので、山羊を小屋に戻し餌を与えた。私は山羊を動物園などでしか見たことなかったもので、棚田に放牧されているのを見て思わず興奮してしまっただ。余談ではあるが、山羊の瞳孔は横長の四角であることを初めて知った。天敵の発見に有利であるからだそう。

林業体験ということで直径30cm程の広葉樹を1本伐採した。チェーンソーで木を切ることが人生で初めてでとても良い経験になった。樹齢約30年の木を切り倒した時の倒れる音と倒れていく木の姿に、長い年月の重みと木の生命力を感じた。伐採した木は薪として、椎茸の原木として使用されるようだ。伐採というと環境破壊の原因など、良いイメージを持っていなかったが、広葉樹においてはそうとも限らないようだ。広葉樹は伐採した後、その切り株から萌芽しまた木が生え再生するようだ。定期的に山に手を入れないと木々はどんどんと生い茂り、放棄されたままの状態では林冠が閉鎖してしまい林床に光が届かず、低木種しか育たなくなってしまい、広葉樹の次世代の芽が育たなくなってしまう。



放棄された里山林



手入れされた里山林



伐採中の様子

[2・3日目の夜の宴会]

2日目のイベントの後と、3日目の夜に地域の方、イベントの関係者、棚田団の方が集まる宴会があり、私たちも一緒に参加させていただきました。豪華な料理がたくさんあり、中でもイノシシ肉のジビエ料理などが美味しかった。大人の方々に棚田団や地域おこし協力隊に入った経緯など、たくさんの人生の話を聞くことができた。自分の未熟さや人生経験の浅さを痛感するとともに、こんなに素敵で面白い方々が上山にたくさんいることが、上山が周りの人を引き付ける理由であり魅力の1つであると思った。

イベントや宴会には多くの方がいらしていたが、その中でいかに自分のことを覚えてもらい、今後も繋がっていくためには、もっと自分から積極的に印象深さを与え、アピールしていくことが大切であるということ学んだ。今の自分にはその力がないことを痛感した。今後社会で生きていくために、重要な力であると思った。



[4日目] 美作市内、西栗倉村見学・地域おこし協力隊活動報告会

前日の夜から雪が降っており、朝起きたら棚田にも雪が2cm程降り積もりとても綺麗だった。

水柿さんが車で美作市内を案内してくださり、美作市の様子や合併前の地区の様子を教えてくださいました。北に進むにつれ、雪も強く降りなかなかスリルがあった。

美作市の隣町の西栗倉村であわくら温泉元湯の経営を行う井筒さんのもとを訪れた。源泉温度が低いため、ボイラーで温める際の燃料を灯油ではなく薪を使うことで、使えなかった状態の悪い木材を使い、村のエネルギーを利用できるようにする取り組みを行っている。日帰り温泉、ゲストハウス、カフェを開き、カフェの店内は子供も遊べる素敵な雰囲気であった。カフェでは地域の方に向けサロンも開催しているようで、地域との繋がりを感じた。



元湯のカフェ

美作市は宮本武蔵の生誕の地である。そこで、宮本武蔵生家跡を訪れた。宮本武蔵は歴史上人物でもかなり有名であるので、市も観光に力を入れていると思っていた。しかし、観光地としての開発はあまり進んでいないような印象を受けた。観光資源を有効的に使い、観光地として活性化していき観光客の維持をしていくことの難しさを改めて感じた。



その後、美作市で地域おこし協力隊として3年間活動した方の活動報告会があった。地域おこし協力隊というと農業を行うという先入観があったが、隊員の活動内容を聞いてみると農業だけではなく、地域の多様な特徴を生かした地域おこしに各々が取り組んでいた。任期が過ぎてもその土地に定住する方が多いことに、協力隊を受け入れる自治体の思いも読み取ることができた。

[まとめ]

4日間の国内研修を終えて思うことは、上山で過ごした時間は人間としての自分を成長させてくれたということだ。大学1年でこのような経験をできたことは、今後の学生生活や将来において大きな意味を持つと思う。机上では学べないこと、大学内の生活では知ることのできない世界や社会の現状を、本当にたくさん学ぶことができた。上山の棚田からも学ぶこともあったが、上山に関わる方々から学んだことは自分の人生においても大きな意味を持つものになった。本当に素敵な大人の方々に出会えたと思う。

つまり、上山集落は人を成長させる力を持ち、魅力溢れる集落であるということだ。

様々な経歴を持つ方が知恵を出し合い、地域住民の賛同と信頼を得て、力を合わせて集落再生を行い棚田を再生する。共通することは上山をよりよく、住みやすく、魅力ある集落にするぞという気持ちであると思う。この気持ちさえあれば、ヨソモノであろうが関係ないということだ。

上山集落は“今”をしっかりとわきまえた上に、多種多様な可能性を秘めており、希望に満ち溢れているような気がした。棚田の景観からも、自然と同じようなものを感じた。

上山集落の高齢者に対しての福祉的対策を今回知ることができなかったが、上山の地域住民の繋がりを見れば、福祉分野での課題の深刻性はあまり感じることはなかった。農山村と都市部での福祉的課題は大きく異なり、また地域性によっても異なるということを再認識した。

最後に、今回の研修を快く受け入れてくださった水柿さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。水柿さんのような素晴らしい方を先輩にもてたこと、とても誇りに思います。OB・OGの方と学生間の繋がりを大事にしたいと思いました。